

I 研究の経過と概要

東山梨地区 保護者・地域住民との提携部会

1. 研究テーマ

「地域とともにある学校づくりをめざして」

子どもたちの抱えている問題やその背景にある社会・地域の課題を明確にしながら、子どもたちが一人の人間として社会的自立を果たしていくためには、学校・家庭・地域社会がそれぞれの責任を明確にするとともに、それぞれを補完し合いながら地域全体で子どもの成長を支えていくことが必要である。また、学校のあり方を見直し、「学校が地域社会へ参画する」や「地域が学校教育へ参画する」をめざし、「地域とともにある学校」づくりに取り組みなくてはならない。

近年、学校では、外部講師の依頼、保護者・地域住民などを対象に行う学校評価・授業評価、学校評議員制の流れを汲む組織の設置等、学校運営に関して外部の声を取り入れることが増えている。さらに、コミュニティ・スクールという学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能になる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みを導入し、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めてきている。

教育基本法には「学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。」との規定（第13条）が置かれた。また、学校教育法では、「小学校は、当該小学校に関する保護者及び地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする。」と定められた（第43条）。さらに、学習指導要領の中にも、学校・家庭・地域住民相互の連携及び協力の必要性に関する記述が多い。これらのことは学校と地域・社会・保護者との連携の必要性が高まっているからと思われる。

学校は地域社会を離れては存在し得ないものであり、児童・生徒は家庭や地域社会で様々な経験を重ねて成長している。本研究会では、「地域とともにある学校づくりをめざして」を主テーマに、地域とともにある学校であることの意味を問いながら、地域・保護者との関わり方を学び、そのことが子どもの成長、学校の成長、地域の活性化に生かされるような取り組みについて検討していきたい。

【研究の方向性】

- I 学校と地域・保護者との関わり方・連携の方策について
- II 学校・子どもたちが地域の人々や保護者とのつながりを生み出す実践
- III 研究の成果の共有（情報の発信も視野に入れる）

2. 研究内容・方法

- ①部員によるレポート報告をもとに討議し、研究を深める。各自、各校の実践を通して、子どもたちの変容の様子、問題点、悩みなどを提案し、それについて討議する。
- ②保護者・地域との連携について、授業実践を通して、研究を深める。
- ③常任講師の先生方には、常時ご助言・ご指導をいただくとともに、保護者・地域との関わりや連携について情報提供していただく。

④夏季学習会では、講師を招聘しての学習会並びに郷土に関わる施設等の隣地研修を通して、研究を深める。

3. 研究組織

部長	清水新果（塩山北小）
副部長	雨宮加代子（塩山南小） 加々美教子（笛川小）
世話人	古屋真吾（大和小）
常任講師	古屋真吾（大和小） 窪田正幸（大和小） 岡 正人（菱山小）

研究メンバー 野尻あや子（塩山南小） 柏原健仁（菱山小） 武井麻子（菱山小）
 大村えり（期菱山小） 飯室美華（大和小） 廣瀬尚子（大和小）
 竹川由美子（井尻小） 那須美佳（井尻小） 武藤有希（日下部小）
 立川慶樹（山梨南中） 計 16 人

4. 年間計画

	月日	会場	司会	記録	内 容
1	5. 9	山梨北中			研究テーマ，研究内容・方法の決定
2	5.23	塩山北小	菱山小	井尻小	年間計画・授業者の決定 県教研の報告
3	6.13	塩山北小	塩山南小	大和小	発表：（笛川小）（塩山北小）
4	8. 6	塩山北小	大和小	菱山小	夏季学習会 ①研修会あるいは臨地研修 ②授業案検討
5	8.29	日下部小	井尻小	山梨南中	統一授業研 授業研究：日下部小 武藤有希先生
6	9.19	山梨北中	日下部小	笛川小	秋季教研 発表：（塩山南小）（山梨南中）
7	11.28	塩山北小	山梨南中	日下部小	発表：（井尻小）（大和小）
8	1. 9	塩山北小	笛川小	菱山小	授業案検討
9	2. 6				統一授業研 授業研究：菱山小
10	2.13	塩山北小	井尻小	大和小	冬季教研 今年度のまとめ

5. これまでの研究の歩み

【第1回 5月 9日】テーマの決定

【第2回 5月23日】年間計画，授業者の決定，春季教研の報告

【第3回 6月13日】実践発表

- ・PTA活動について「文化部 機関誌『北辰』の発行について（塩山北小）
- ・サポートティーチャーについて 保護者ボランティアによる読み聞かせ（笛川小）

【第4回 8月 6日】

- ・授業案検討 1学年 道徳「ふるさとを大切に」 日下部小 武藤有希先生
- ・学習会 「菱山小におけるコミュニティースクール実際」 菱山小

【第5回 8月29日】統一授業研

- ・研究授業 日下部小 武藤有希先生 小1道徳「ふるさとを大切に」

【第6回 9月19日】秋季教研 実践発表

- ・「伝統文化教育」地域素材を生かした授業について（塩山南小）
- ・PTA活動について 学年ごとの学年行事について（山梨南中）

第1学年 道徳学習指導案

日時 平成30年 8月29日

場所 日下部小 1年2組教室

対象学級 第1学年2組 24名

指導者 武藤 有希

1. 主題名 「ふるさとを大切に」 C伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度

2. 教材名 「がんばれ まごべえ」 (出典: 小学道徳1 はばたこう明日へ 教育出版)

3. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

「伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度」に関する内容項目は, 低学年においては, 内容項目C-1(5)「我が国や郷土の文化と生活に親しみ, 愛着を持つこと」とされている。

人間にとって自分が生まれ育った郷土は, 心のよりどころであり, 生涯にわたって心の支えとなる大切なものである。1年生の段階から, 自分が住む地域の行事や文化に関心を向け, 親しむ経験を積み重ねることによって, 郷土を大切にしたいとしようとする心が育っていく。身近にある行事や遊びに積極的に関心を向けさせ, 郷土のよさに気づき, 大切にしようとする想いを育てることが必要である。

(2) 本時に関わる児童の実態

24名の学級である。入学してから, 生活科で行った七夕などの季節の行事を通して, 伝統文化に触れる機会を持っている。また, 夏休みに楽しみなこととして, 地域の夏祭りに参加することを挙げる児童も多かった。しかし, 自分の住んでいる地域の伝統的な行事に親しみを持ったり, その良さに気づいたりするところまでは至っていない。中には, 自分の地域の行事を知らない児童もいるであろう。

夏休み明けに行ったアンケートでは, 地域の祭りに参加したことがある児童が15名と学級の半数以上であることが分かった。一方参加したことがない児童が9名おり, 学級の4割近くが地域の祭りに参加したことがない, あるいは, 知らないという結果となった。核家族が増え, 祖父母から地域の行事について聞く機会が減るなど地域の行事に参加しない家庭もあることが考えられる。また, 地域の祭りに参加した児童に, 祭りで見たことやしたことを聞いたところ, 花火や出

お祭りに関するアンケート

H30. 8. 22実施

○あなたは, いままでに家の近くのお祭りにいったことがありますか。

- ・あります。 15人(63%)
- ・ありません。 9人(37%)

※あると答えた児童のみ

○お祭りで見たことやしたことを教えてください。

- ・花火 (12人)
- ・かき氷ややきそばなどを食べた (8人)
- ・くじびき (3人)
- ・ヨーヨーつり (3人)
- ・おみくじ (3人)
- ・おみこしを見た (2人)

○お祭りで楽しみにしていることは何ですか。

- ・花火 (12人)
- ・かき氷 (7人)
- ・射的 (4人)
- ・金魚すくい (3人)
- ・おみこし (1人)
- ・友達に会うこと (1人)

店についての回答が目立ち、昔から行われている秋祭りなどのイメージは、児童の中にあまりない。

そこで、他地域の伝統的な祭りに触れることで、自分の地域にも同じように地域で大切にされている行事があることに気づかせたい。また、ゲストティーチャーの話を聞く中で、そういった行事に自分も進んで参加しようという思いを育て、児童が自分の住む地域に関心を持つことにつながればと思う。

(3) 資料について

本資料は、長岡市の山古志地域で毎年行われる「牛の角付き」が題材である。主人公が角付きを楽しみにしている様子や、角付きを主人公だけでなくその場にいる人すべてが楽しんでいる様子が、主人公の言葉で描かれている。主人公の台詞や動作を自分だったらどうするか動作化することで、地域の行事に参加する喜びや楽しさを感じることができる資料である。また、本資料を手がかりにして、児童の身近にある地域の行事や文化に目を向けることができるであろう。

(4) 考え議論する道徳授業のために

○ICTの活用

授業の展開前段では、実際の角付きの動画を流す。実際の映像を見ることで、その場の臨場感や主人公の思いを深く感じることができると思う。また、展開後段から終末にかけて、地域の祭りの様子の写真を提示する。児童の中には、行事に参加していても祭りの名前を知らなかったり、どこの祭りが覚えていなかったりする児童もいることが考えられる。写真を見ることで、自分が体験したことを思い出したり、今まで体験したことと行事の名前や場所とを結びつけたりすることができるだろう。

○ゲストティーチャーの活用

本校の用務員である廣瀬さんをゲストティーチャーとしてお迎えし、話を伺う。廣瀬さんは、本校の学区に住んでおり、数年前まで地域の祭りの実行委員を務めていたそうである。地域の方の行事への思いや児童が祭りへ参加する意味などをお話いただくことで、児童が行事へ参加したいという思いを強くすることができるだろう。また、地域の行事を知らなかった児童にとっては、地域の行事に親しむ第一歩となるであろう。

※ゲストティーチャーに話していただく地域の行事について

- ①七日子さん（七日子神社）…七日市場地区
- ②水の宮さん（大井俣神社）…小原地区・八日市場地区
- ③誉田別さん（誉田別神社）…下井尻地区

10月15日に例大祭が行われるが、近年は、10月の第2日曜日に実施するとのこと。どの地域も大人神輿と子ども神輿が出て、地域を練り歩く。

※話していただきたい内容


- ・祭りの簡単な説明（場所・時期等）
- ・どんな思いで祭りに参加していたか。
- ・お祭りや地域の子どもたちへの願い
- ・児童が参加できるものはあるか。（子ども神輿のことなど）

4. 本時のねらい 自分が住む地域の良さを知り，すすんで地域の行事に親しむことができるようにする。

5・本時の展開

	学習活動	発問○と予想される児童の反応・	○指導上の留意点 ☆評価の観点（方法）
導入 3分	1. アンケートの結果から，自分の生活体験を振り返る。	○参加したことがある人は何のお祭りか教えて下さい。 ・近くの神社のお祭り ・御神輿をかついだよ。 ・大嶽山のお祭り ・盆踊り	○展開後段，終末に関わる内容であるため，簡単に触れる程度にとどめる。
◎ ちくのおまつりについて かんがえよう			
展開 前段 15分	2. 資料を読み，主人公の気持ちを考える。	○このお祭りを知っている人はいますか。 ・知らない。 ・初めて聞いたよ。 ○みんなも「ぼく」になったつもりでまごべえを応援してみよう。 ・がんばれ！ ・負けるな！ ○応援しているとき，みんなは，どんな気持ちになりましたか。 ・すごく楽しかった。 ・がんばれという気持ちになった。 ○他の町から来たお客さんはどんな気持ちだったでしょう	○挿絵を見せながら範読する。 児童が理解しづらいところがあれば説明をしながら読む。 ※児童に教科書を見るよう声をかける。 ○実際の角付きの映像を流す。 ○角付きの映像を流しながら自由に応援させることで，祭りの臨場感を感じさせる。 ○視点をお客さんに変え，「ぼく」だけではなく，周りの




		<p>か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんばれという気持ち ・「ぼく」と同じ気持ち ・楽しい。 ・すごいな。 <p>◎まごべえに大きな拍手が送られたとき、「ぼく」はどんな気持ちになったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とってもいい気分。 ・まごべえすごいね。 ・まごべえよくがんばったね。 ・うれしいな。 ・次も見たいな。 	<p>人も楽しんでいることに気づかせる。</p> <p>☆主人公の気持ちになって、地域の行事に親しむことのよさについて、考えることができているか。(ワークシート)</p>
<p>展開 後段 20分</p>	<p>4. 自分たちの地域にも楽しみな行事があることに気づく。</p>	<p>○「ぼく」のように楽しみにしているお祭りがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋祭り ・夏祭り ・よく分からない。 <p>○みんなの住んでいる地域をよく知っている用務員の廣瀬さんにお祭りのことを聞いてみましょう。</p>	 <p>○写真などを提示しながらゲストティーチャーに3つの祭りについてインタビュー形式で簡単に説明してもらおう。</p>
<p>終末 5分</p>	<p>5. 授業の感想を交流する。</p>		<p>☆自分が住む地域の行事の大切さを理解し、自分との関わりで考えることができている。(ワークシート)</p>

5. 評価

<p>短期の評価</p>	<p>・友達の話やゲストティーチャーの話に触れ、自分が住む地域の行事の大切さを理解し、自分との関わりで考えることができているか。(ワークシート・発言)</p>
<p>長期の評価</p>	<p>・自分が住む地域の良さを大切にして、すすんで地域の行事に親しむことができているか。(授業後の行動や発言)</p>

6. 板書計画

ななひこさん みずのみやさん ごんだわけさん	写真	写真	写真	○くさかべちくのおまつり		◎ちくのおまつりについてかんがえよう ○おうえんしているとき どんなきもち	アンケートの結果	アンケートの結果
				○まごべえにおおきなほくしゅ がおくられたときどんなきもち ・とつても いいきぶん ・まごべえ, すごいね。 ・よくがんばったね。	・がんばれ! ・かってほしい。 ・かっこいいな。			

7. 結果

①授業での児童の反応

- ・角突きの映像を見たことで、こういう祭りもあるんだと認識することができたようだ。さらに、読み物だけでは感じることのできない祭りの臨場感を味わい、主人公の気持ちに寄り添うことができていた。
- ・ゲストティーチャーが用務員という身近な存在であったため、興味を持って話を聞くことができた。
- ・自分の思いや考えを書くことが1年生の実態では難しく、個人差がかなりある。短い言葉ではあるが、それぞれの思いを書くことができた。

②授業後の児童の様子

- ・家に帰り、家族に祭りの話を聞いた児童が多くいた。
- ・授業で使った地図や写真を教室後方に掲示したところ、それを見ながら自分の家の場所を探したり、神社の場所を確認したりしている様子が見られた。また、写真を見ながら、授業中では見つけることができなかった細かい部分に目を向けていた。
- ・児童が用務員へ話しかける機会が増え、祭りのことだけでなく、他愛もない会話を楽しんでいる様子が見られるようになった。

③観察者からの評価

ICTの活用 「まごべえって牛なんだ」という児童の発言があり、読み物だけでは、話の内容を理解することが難しい児童もいる。だからこそ、特に低学年にとっては、視覚的に提示することで話にどっぷりとつかることができ、有効な手段であった。

また、展開後段で祭りの様子の写真を提示したことで、ゲストティーチャーが話をしやすくなり、児童も興味を持って聞くことができていた。

ゲストティーチャー 身近なゲストティーチャーだったことで、今後、児童とのつながりが生まれる。

ゲストティーチャーから話を聞く際、インタビュー形式にしたことで、授業者が時間配分

をしやすく、ゲストティーチャーが緊張している場合も話しやすいという点で非常に有効であった。また、低学年の児童にとっては、今何の話をしているかが理解しやすいという利点もある。

しかし、ゲストティーチャーとの打合せを十分にしなくては、授業のねらいに迫ることができない。事前の打合せの段階で、どういった意図で授業を行うのか等をゲストティーチャーにきちんと伝えることが大切である。あらかじめ原稿を作っておいてもよいのではないか。

今後の活動 今回、地域の祭りを扱ったことで、児童が実際に祭りに参加したいという思いを強くすることができ、ねらいは達成されていた。

今後、同学年の他クラスでもこの授業を行うと、学年での活動に生かせるのではないか。

生活科の散歩の活動と関連させて、実際に神社へ出かけ、御神輿を見せてもらうなど様々な活動を仕組むことができる。1・2年で行う秋祭りにも生かせるのではないか。

8. 全体を通しての考察

○学校と地域との関わり方について

- ・今回、本授業を行うにあたり、様々な方から話を聞く機会を持った。授業者が住んでいる地域でない場合、その地域について知らないことが多い。地域の様々な方から話を聞く中で、授業者自身がまず地域を知ることが何より大切であることを実感した。そこから地域とのつながりが生まれ、教育活動に生かすことができる。
- ・地域の方から教えていただいたことをどう返していくかが今後の課題である。地域と共にある学校をめざし、今回の授業で言えば、祭りに参加することや長い目で見て、大人になっても地域に愛着を持つことができるように取り組むことが大切であろう。そのためには、自分が住む地域をまず知ること、地域の素晴らしいところをたくさん見つけることから始めることが必要であると考え。そして、小学校6年間で少しずつ発展していくようなそれぞれの発達段階に応じた取り組みを考えたい。

○道徳におけるゲストティーチャーの活用

- ・道徳ではいかに自分のこととして課題を捉えることができるかが重要である。そこでゲストティーチャーを活用することで、身近な問題であると感じたり、より興味を持って課題に向き合うことができる。やはり、生の声は児童の心に残るため、非常に有効である。
- ・ねらいを達成するためにどのようなゲストティーチャーを依頼すればよいのか、また、身近にそういった人材がいるのか、など授業を作る上での課題は多い。各教科、各単元で活用できる人材を洗い出すことが必要であろう。そのためには、学校だけでなく地域の関係機関と連携をすることが鍵となるのではないか。さらに、洗い出した人材を次年度へと引き継ぐ手立ても考えなくてはならない。
- ・ゲストティーチャーとの打ち合わせなくして授業は成立しない。ゲストティーチャーと授業者が同じところを目指して授業ができるよう、打合せを十分にし、児童へ何を伝えるべきかを明確にしておく必要がある。
- ・ゲストティーチャーの手配や打合せは時間がかかる。管理職の先生方との連携も密にしながら、授業者の負担にならず、質の高い授業ができるような仕組みが構築できないだろうか。

第4学年 道徳学習指導案

指導者 4年2組 雨宮 加代子

1. 主題名 「郷土への思い」 Cー(16) 伝統や文化の尊重, 国や郷土を愛する態度
2. 教材名 「兵左衛門の水」 出典:山梨県教育委員会 山梨県 道徳教育用郷土資料集
3. 伝統文化の視点

- (1) 地域素材との出会い, 地域とのふれあいをもとに, 自ら課題意識を大切にして, 積極的に地域と関わる。 (関わる)
- (2) 地域とのふれあいを大切にして, 友だちと協力しながら, 地域について理解を深めたり新たな気付きを持ったりする。 (気付く)
- (3) 自分が調べたことを発表したり, 友だちの発表を聞いたりする中で, これからの自分の学習や生き方などについて考える。 (発信する・交流する)

4. 主題設定の理由

- (1) ねらいとする価値について

本主題は, 内容項目のC「主として集団や社会との関わりに関すること」の(16)「我が国や郷土の伝統と文化を大切にし, 国や郷土を愛する心をもつこと。」に当たる。自分が生まれ育った郷土は, その後の人生を送る上で心のよりどころとなる大きな役割を果たすものである。そこで, 郷土のために尽くした先人の業績と苦勞を理解させながら, 自分の生活が多くの人々の苦勞や努力の上に成り立っていることに気付かせ, 感謝の気持ちとともに郷土を愛する気持ちを育てたい。また, 身近にも地域のために貢献している方がいることや, 自分たちも地域の人たちからの愛情に支えられていることを知ること, 地域への思いを深められるようにしたい。

- (2) 教材について

本教材は, 徳島せぎ(菰崎市から南アルプス市までの総延長17キロメートルの用水路)づくりにかけた徳島兵左衛門の話を素材にしている。兵左衛門は, はじめ自分の商売のための用水路づくりと考えていたが, 村人のせぎづくりに対する熱意や協力により, しだいに村人のために働くことを決意する。村人の郷土の発展を願う姿に共感させながら, 兵左衛門の業績と苦勞を理解させ, ねらいに迫るようにする。

地域の実態について

本校は, 甲州市のほぼ中心に位置し, 学校周辺は市街地を形成した商業圏であり, 市街地を外れると, 果樹栽培を主とした農業地帯が広がっている。また, 学校の北側には国宝の楯無鎧(小桜韋威鎧 兜, 大袖付)を有する菅田天神社もあり, 歴史的にも古い伝統をもつ地域である。

ゲストティーチャーについて

消防団として活動している保護者をゲストティーチャーとしてお招きし, 地域のために活動している理由や, 地域の子どもたちに望むことなどについて話をしていただく。学級の保護者の中にも消防団として活動している人は多く, 身近な存在だと言える。地域のために活動している人は, 昔の人や離れた地域の人に限らず, 身近にもいるのだということに気付くきっかけとしていきたい。

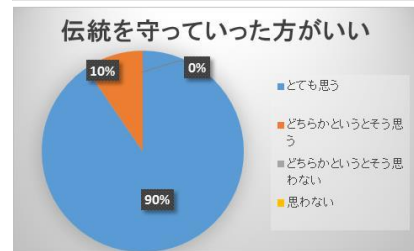
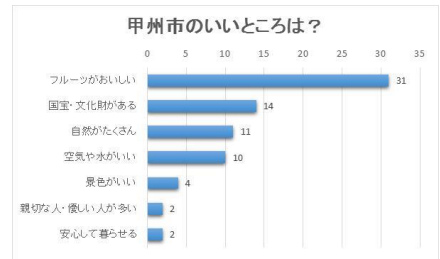
5. 児童の実態

伝統文化教育のアンケートより (H29. 5実施)

4年生の97%が甲州市を好きと答えている。甲州市に愛着を感じている児童がほぼ全員であることが分かる。甲州市の「どんなところに魅力を感じているのか」という問いに対して、①フルーツの宝庫、②国宝・文化財が多い、③自然がいっぱいという順に回答されている。フルーツと歴史のまち甲州市という特徴を児童はつかんでいることが分かる。

「昔からあるものや、昔から続けられているものは大切に守っていった方がいいと思いますか?」という問いには、児童が全員続けた方がよいと答えており、その理由として、「伝統があるから」、「歴史があるから」と、昔から続いていることに関して、歴史的、文化的な価値があると認識していることが分かる。また、山梨県のぶどうや桃の生産量は日本一で、ワイン醸造も有名であることを、児童はよく理解しており、社会科「養蚕から果樹王国へそして世界の甲州ワインへ」の学習を通して、現在に至る背景には、中央本線の開通や果樹栽培、ワイン醸造に関わった当時の人々の願いや思いがあり、さらには先人たちの工夫や苦心、努力があったことを学んできている。苦労・努力・工夫のバトンパスによって、ワイン作りが続けられていることについても学んできている。

今回の学習では、地域のために尽くした先人の苦労や努力について再度振り返るとともに、現在でも地域のために思い活動している人たちがいることを知り、その思いを知ることで、地域を大切にする気持ちを育くませていきたい。



6. 本時の学習

(1) ねらい

郷土のために尽くした先人の業績や苦労、また現在も郷土のために活動している人たちの思いを知り、郷土を大切にしようとする気持ちを育てる。

(2) 伝統文化の視点：気付く

地域のために活動する方の思いにふれることで、自分たちの生活は地域の人たちに支えられているということや、地域の人たちの愛情も地域の魅力のひとつであることなど、新たな気付きを持たせたい。

(3) 本時の展開

展開	学習活動・内容	指導上の留意点(・)と評価(★)視点(☆)
導入 (10)	1. 資料「兵左衛門の水」を紹介する。 ・教師が読み聞かせをする。	・「せぎ」とは何か、確認してから資料を読むようにする。 ・自分のためではなく、地域のために力を尽くした思いについておさえるようにする。
展開 (10)	2. 「偉人クイズ」をし、社会科や総合的な学習の時間の学習内容を振り返る。 ・中央線開通のために活躍した若尾逸平・雨宮敬次郎。 ・本場のワイン作りを日本に伝えた高野正誠・土屋竜憲 ・ワインを全国に広めた宮崎光太郎 ・世界に認められるワイン作りを行っている三澤さんや他のワイン醸造家の方 3. 現在、地域のために活動をしている人はどんな人がいるか考える。 ○身近にも、地域や学校のため、また私たちのために活動してくださっている方はいるでしょうか。 ・一ノ瀬高橋の春駒保存会の方。 ・子どもクラブの方。 ・図書ボランティアの方。 ・スクールガードの方。 ・消防団の方。	・甲州市に関わる、地域の発展に尽くした人について思い出させる。 ・昔の偉人だけでなく、現在でも地域のために活動している人が身近にたくさんいることに気付かせる。 ・たくさんの人たちに支えられて生活していることに気付かせる。
(20)	4. ゲストティーチャーの話聞き、地域のために活動する思いについて知る。 ・地域のために力になりたいと思っているから。 ・子どもたちにも、地域のことを大切に思っ欲しい。	☆【伝統文化の「気付く」の視点】 地域のために活動する方の思いにふれることで、自分たちの生活は地域の人たちに支えられているということや、地域の人たちの愛情も地域の魅力のひとつであることなど、新たな気付きを持つ。 ・地域のために活動している理由や、子どもたちへの願いなどについて話をしていただく。 ・初めて知ったこと、質問など、メモを取りながら交流するようにする。

終末 (5)	4. 本時の授業から学んだことを感想に書く。 ・甲州市には、地域のために活動している方がたくさんいることが分かった。 ・自分も地域のためにできることをしたいと思った。 ・地域の方に会ったらあいさつを元気にしよう。	・「今日の学習で分かったこと」「初めて気付いたこと」「いいなと思ったこと」「これからのこと」を感想として書かせる。 ★郷土のために尽くした先人の業績や苦勞、また現在も郷土のために活動している人たちの思いを知り、郷土を大切にしようとする気持ちを表現できたか。 (発言, ワークシート)
-----------	---	---

(4) 評価の具体

郷土のために尽くした先人の業績や苦勞、また現在も郷土のために活動している人たちの思いを知り、郷土を大切にしようとする気持ちを表現できたか。(発言, ワークシート)

【成果と課題】

- ゲストティーチャーを有効に活用することができた。
- ・3名(消防団に所属している学級の保護者2名と分団長)のゲストティーチャーに来ていただいた。
- ・生の声が聞けたことで、「地域のことを大切に思っているから活動している。」という気持ちを実感することができた。
- ・ゲストティーチャーを保護者の方をお願いしたため、子どもたちにとっても身近な存在であり良かった。
- ・消防団としての活動のやりがいや良い面だけでなく、負の部分についても飾らない内容で話をしていただいた。夜遅くまで活動する大変さや、家族や仕事よりも消防団の活動を優先しなくてはならない葛藤についても触れていただいたおかげで、「地域を大切に思う気持ちがないとできない活動だ。」ということを実感することができた。
- ・一方的ではなく、子どもたちとやりとりをしながら話をしていただいた。「消防団に入ったきっかけは何ですか。」「やりがいはありますか。」「やめたいと思ったことはありますか。」などの子どもたちからの質問に、素直に答えていただいたことで、内容が更に深まった。
- ・ゲストティーチャーとの打ち合わせを重ねたことで、授業のねらいを理解した内容の話をしていただいた。
- ・夜警の時期でもあり、活動の話も身近に感じられた。
- 地域のために活動している方が身近にたくさんいることを知り、地域の活動に目を向けるきっかけとなった。
- 地域のために、自分ができることをしたいと感想をもつ児童が多かった。
- 道徳と社会科を関連づけた学習を通し、地域を大切にしようという心情を育むことができた。
- 社会科の既習事項である「消防署」と「消防団」の違いについて改めて学習することができた。
- キャリア教育にも繋がる部分があった。
- 時間に制限があるが、話し合い活動の時間を多く取り、葛藤場面を仕組むと良かった。
- ゲストティーチャーの方が用意してくださった写真資料(消防団の活動の様子)を、電子機器を活用して提示できると良かった。→事前の打ち合わせでの確認が必要。
- 「ボランティア」と「仕事」の捉えが難しかった。